

社会 第5学年 1 世界から見た日本

検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「日本は世界のどこにあり、どんな広がりをもつだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。結論の暗唱ではなく、根拠の箇所を指し示せるかを見取る。本時は単で集めた記録を整理する時間として置く。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：地球儀と世界地図で大陸や海洋、日本と主な国の位置を確かめる。縮尺や方位を見て、地図の端に近いことと実際の位置関係を区別する。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。(1)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：地図の左右端を遠い場所と思う場合、地球儀で連続していることを示す。面積を印刷画像の見た目だけで比べない。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。(1)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。複数の地図を使って位置を説明する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：領土や国名は学校で使う公的資料に合わせ、国や人への優劣を付けない。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、(1)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：地球儀と世界地図で大陸や海洋、日本と主な国の位置を確かめる。縮尺や方位を見て、地図の端に近いことと実際の位置関係を区別する。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全6時間は日本文教出版の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「日本は世界のどこにあり、どんな広がりをもつだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「日本は世界のどこにあり、どんな広がりをもつだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。複数の地図を使って位置を説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

